



写真上／「おひさまはらっぱ」で、畑まで冒険したらちょっと一息。この日収穫する里イモの話聞きながら、ボランティアスタッフ手作りのにんじんケーキをパクパク。このにんじんも里山で採れたものだ。写真下／「ピーマン採れたよ」。へたに付いてきた葉っぱは、しっかり取り除いて…。何も教えなくても、子どもたちは大人の作業を見て自然に学んでいく。



「おひさまはらっぱ」に参加してきたよ

利用することによって維持される里山は、訪れれば訪れるほど故郷に変わる。だからこそ、ルールを守り、みんなで未来に残し続けたい。

の故郷としてこの場所を愛するようになってくれたら本当にうれしい」

「里山づくりは未来までずっと続く活動です。里山でたくさん遊んだ子どもたちが、自分

由な発想と感性。だから、スタッフは「それは、だめだよ」となるべく言わずに、傍らで見守ることを大事にしている。「子どもが何かを発見したとき、小さな勇気を出したときに、そばにいて一緒に分かち合う大人でいたいから」「子どもは目の前でどんだんたくましくなっていくます。その姿を見ながら、お父さんやお母さんも自然の中で少年少女に戻ってリフレッシュしてほしい」とスタッフは語る。

関連info.

「山田川自然の里」と「山田川グリーンツーリズム研究会」

箱根連山を水源とする山田川の清流と豊かな緑が織り成す自然環境を活かして平成20年度に完成。市民農園、ユニバーサル農園、営農ヘルパー農園、散策路などがあります。そして、この里山を再生し、守り育てることを目指して活動しているのが市民ボランティア団体「山田川グリーンツーリズム研究会(やまぐり)」。「農業」「里山」「棚田」の3つを中心に、土に親しみ、人と人の交流を大切に、自然と触れ合うことができるプログラムを企画・展開しています。

やまぐり公式ブログ/<http://yamaguri-ra.jp/>
お問合せ/やまぐり事務局(三島市農政課) TEL:055-983-2652



みんなの故郷を
未来につなぐ里人たち

三島市中心部から車で約10分。山田川の溪流に沿った小さな谷あいには、「山田川自然の里」という里山がある。豊かな山と川の恵みを享受し、自然に寄り添うように田畑が広がる静かなたずまいは、まさに日本の農村の原風景そのもの。自然を愛するボランティアが守り続けるのは、子どもたちに残したい、美しい三島の故郷だ。



元の荒地地に戻ってしまう」と川邊さん。会員をはじめ、得意分野で手を貸してくれる人、竹林整備を引き受けてくれる団体、市民農園を借りる利用者など、多くの人の協力が今後必要となってくるだろう。

自然の中で子どもと過ごす幸せ

「やまぐり」では、親子を対

象にした活動にも力を入れていく。就園前の子どもを対象にした「おひさまはらっぱ」(0歳〜4歳)、就学前の子どもを対象にした「どろんこはらっぱ」(4歳〜6歳)だ。子どものペースで里山歩きを楽しみながら、カニや虫を捕まえたり、畑で作物を収穫したり、湧水や田んぼに入ったり、手作りの里山おやつを食べたり…。活動で大切にしているのは、子どもたちの自

里山を再生し、守るということ

旭ヶ丘や初音台など、三島市東部に位置する高台の宅地開発から取り残されるように、谷あい静かな農村風景をとどめている山田川流域。その上流にある「山田川自然の里」は、市街地近郊ということを忘れるほど自然が豊かな、のどかな里山だ。実は、この場所は数十年以上も



山田川自然の里
山田川グリーンツーリズム研究会

自然 01

耕作放棄された荒地だった。しかし、「何とかよみがえらしたい」と三島市が地権者から土地を借り、地元有志が市と力を合わせ、3年をかけて復元整備。その後、整備段階から携わってきたボランティアを中心に市民団体「山田川グリーンツーリズム研究会」(以下略称「やまぐり」)を設立。市と協働で維持管理をはじめ、さまざまな活動を行っている。

「ここでは『農業』を中心とした里山づくりを進めています。無農薬・有機肥料での農業を通して、美しい里山が再生されるような場所を作りたいんです」と、同会員の川邊眞理さん。「やまぐり」では、田や畑でお米や野菜を育てて収穫する「農業体験」をはじめ、里山の自然を満喫するイベントを、年間通して開催している。

少しずつ再生が進む自然の里だが、「里山は、常に人が手を入れ続けることで維持されるもの。何もしなければ、またすぐ